

■公認ライフル射撃コーチ

養成目的 競技者育成プログラムに基づき、都道府県内のレベルでの競技者の発掘・育成にあたる指導者を養成する。

役割 競技者育成プログラム指針に基づいた指導にあたるとともに、広域エリア内の有望な競技者や大学での強化指導にあたる。トップアスリートの育成・強化を行なう。各都道府県ライフル射撃協会における競技者育成システムの研究開発に参画する。

受講条件 受講年度の4月1日現在満22歳以上で、実技経験3年以上、都道府県ライフル射撃協会が推薦し、日本ライ

フル射撃協会の承認を得た者。

カリキュラム 共通科目 152.5h (共通Ⅰ＋Ⅱ＋Ⅲ) 専門科目 60h

受講料 共通科目 19,440円 専門科目 10,800円

登録料(4年間) 10,000円(初回登録時のみプラス3,000円)

更新のための義務研修 資格有効期限が切れる6か月前までに、最低1回は、日本ライフル射撃協会が定める研修または日本体育協会(都道府県体育協会が実施する研修を含む)が実施する(認める)研修を受けなければならない。

担当委員会 日本ライフル射撃協会 競技者育成プログラム委員会

区分	カリキュラム内容	時間数			
		集合	その他	計	
1	競技環境	① 競技者育成プログラム	1h	1h	2h
		② 競技者育成プログラムの理念			
		③ 射撃界の抱える現状—貫指導システム・射撃組織			
		④ 射撃における国際競技力の総合的な向上方策とJOCゴールドプラン			
		⑤ ナショナルチームへの道程(ナショナルチームに至るまでの過程とシステム)			
		⑥ 銃砲刀剣類所持等取締法(国内危害予防規則・銃砲所持許可等に係る法令)			
		⑦ 世界の動きと海外での諸問題			
2	競技規則	① 競技規則	1h	1h	3h
		② 射撃用具の検査			
		③ 射撃競技の審査			
		④ クォーター・プレース制度(国際競技とクォーター・プレース制度)			
3	医科学	① ドーピング防止	2h	1h	3h
		② ドーピング検査と禁止薬物			
		③ ドーピング・コントロールでの指導者の役割			
		④ 射撃選手の傷害予防(射撃選手の傷害予防と必要な栄養摂取・水分補給)			
		⑤ 赤外線訓練機(射撃トレーニングの科学的分析と評価)			
		⑥ 射撃のフィジカルトレーニング			
4	ライフルの技術	① 伏射・立射・膝射の技術に対する基礎理論	8h	4h	12h
		② 伏射、立射、膝射各姿勢の技術理論			
		③ スキル向上のためのトレーニング方法			
		④ 射撃とメンタルマネージメント			
		⑤ ライフル種目の中級者への指導法			
		⑥ ジュニア選手の育成			
5	ピストルの技術	① ピストル射撃に対する基礎理論	7h	4h	11h
		② ピストル種目の技術理論			
		③ スキル向上のためのトレーニング方法			
		④ 射撃とメンタルマネージメント			
		⑤ ピストル種目の中級者への指導法			
		⑥ ビームライフルの技術			
		⑦ ジュニア選手の育成			
6	射撃理論発表	① 射撃理論発表(射撃技術を主題としたディベート)	5h	0h	5h